

# 主日礼拝

2021年11月07日  
午前10時30分

前奏 「G線上のマリア」(J.S.バッハ)

参集 (報告・紹介・予定)

## 招詞

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハによる福音書3:16)

## リタニー「主が共にいて」

司式者：世界のつくり主なる神さま、  
すでにみもとに召された母を覚えます。

みんな：主が共にいてくださることを感謝します。

司式者：すでにみもとに召された父を覚えます。

みんな：主が共にいてくださることを感謝します。

司式者：先にみもとに召された友を覚えます。

みんな：主が共にいてくださることを感謝します。

司式者：あなたは生と死を超えて、ひとつの民に  
結んでくださいます。

みんな：主が共にいてくださることを感謝します。

司式者：キリストの福音を喜び信じます。

みんな：主が共にいてくださることを感謝します。

## 祈禱

献金 献金箱が受付に置いてありますので、  
礼拝前にお献げください。

## 主の祈り

天にまします我らの父よ、  
ねがわくは み名をあげめさせたまえ。  
み国を来らせたまえ。  
みこころの天になるごとく  
地にもなさせたまえ。  
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。  
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、  
我らの罪をもゆるしたまえ。  
我らをこころみにあわせず、  
悪より救い出したまえ。  
国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの  
なればなり。  
アーメン。

## 聖書 創世記 15:1～18a

旧約(新共同訳) p19～p20

これらのことの後で、主の言葉が幻の中でアブラムに臨んだ。

「恐れるな、アブラムよ。

わたしはあなたの盾である。

あなたの受ける報いは非常に大きいであろう。」

アブラムは尋ねた。「わが神、主よ。わたしに何をくださるといいますか。わたしには子供がありません。家を継ぐのはダマスコのエリエゼルです。」アブラムは言葉をついだ。「御覧のとおり、あなたはわたしに子孫を与えてくださいませんでしたから、家の僕が跡を継ぐことになっています。」

見よ、主の言葉があった。

「その者があなたの跡を継ぐのではなく、あなたから生まれる者が跡を継ぐ。」

主は彼を外に連れ出して言われた。「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみるがよい。」そして言われた。「あなたの子孫はこのようになる。」アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。

主は言われた。

「わたしはあなたをカルデアのウルから導き出した主である。わたしはあなたにこの土地を与え、それを継がせる。」

アブラムは尋ねた。

「わが神、主よ。この土地をわたしが継ぐことを、何によって知ることができましょうか。」

主は言われた。

「三歳の雌牛と、三歳の雌山羊と、三歳の雄羊と、山鳩と、鳩の雛とをわたしのもとに持って来なさい。」

アブラムはそれらのものをみな持って来て、真っ二つに切り裂き、それぞれを互いに向かい合わせて置いた。ただ、鳥は切り裂かなかった。はげ鷹がこれらの死体をねらって降りて来ると、アブラムは追い払った。

日が沈みかけたころ、アブラムは深い眠りに襲われた。すると、恐ろしい大いなる暗黒が彼に臨んだ。

主はアブラムに言われた。

「よく覚えておくがよい。あなたの子孫は異邦の国で寄留者となり、四百年の間奴隷として仕え、苦しめられるであろう。しかしわたしは、彼らが奴隷として仕えるその国民を裁く。その後、彼らは多くの財産を携えて脱出するであろう。あなた自身は、長寿を全うして葬られ、安らかに先祖のもとに行く。ここに戻って来るのは、四代目の者たちである。それまでは、アモリ人の罪が極みに達しないからである。」

日が沈み、暗闇に覆われたころ、突然、煙を吐く炉と燃える松明が二つに裂かれた動物の間を通り過ぎた。その日、主はアブラムと契約を結んで言われた。

賛美 385 「花彩る春を」

詞：上島英枝, 1961- INOCHI  
曲：高浪晋一, 1941-

1 は ないろどるはるを このともは 生きた、  
2 みどりもえるなつを このともは 生きた、  
3 いろづきゆくあきを このともは 生きた、  
4 ゆきかがやくふゆを このともは 生きた、

いのち - みたす あいを うた い つ つ。  
いのち - いかす みちを もと め つ つ。  
いのち - ひとの ために もやし つ つ。  
いのち - あたた めつつ やす ら か に。

な や み つ ま ず く と き、 この と も の う た が  
な や み つ ま ず く と き、 この と も の す が た  
な や み つ ま ず く と き、 この と も は し め す  
この 日、 目 を と じ れ ば お も う か ぶ の は

わ た し を つ れ も ど す 主 の み ち へ。  
わ た し を ふ り か て え る 主 の み ち で。  
あ ゆ み つ づ け て き た 主 の み ち を。  
こ の と も を つ つ き だ 主 の ひ か り。

説教 「約束を信じ、未来へ」

聖餐式 牧師のみ

賛美 516(1,3,5) 「主の招く声が」

How clear is our vocation, Lord  
詞：Fred Pratt Green, 1903- REPTON  
曲：C. Hubert H. Parry, 1848-1918

① 主のまね - く - このえがきこえもく。  
② よばれる - こ - の身はちかいらもく。  
③ みこたえに - こ - たえたいせいとちの  
④ あたらしいか - だ - ひきこのわぎも  
⑤ 主のまね - く - こえもく。

日ごのにおしやしな、い、あ、た、らし、く、生、か、す、  
この世のにおしやしな、い、あ、た、らし、く、生、か、す、  
あゆみ架のにおしやしな、い、あ、た、らし、く、生、か、す、  
十字のにおしやしな、い、あ、た、らし、く、生、か、す、

わ - た し た - ち - を ま ね く こ え が  
く - び き を - お - い、 あ お え い て す え る。  
主 - の 名 を - 身 - に、 あ お え い て す い る。  
つ - と め と - し - て、 お は お び ん で す も う。  
み - わ ぎ の - た - め も ち い ら れ る。

- ① 主の招く声が 聞こえてくる。  
日ごとにやしない、新しく生かす、  
私たちを 招く声が。
- ② 呼ばれるこの身は 力も無く、  
この世の重荷と わずらいの中で  
くびきを負い、あえいでいる。
- ③ み声に応えた 聖徒たちの  
歩みに従い、私たちもまた  
主の名を身に 帯びて進もう。
- ④ 新しい課題も 日々のわざも  
十字架を負われた 主が与えられた  
つとめとして 励んでゆこう。
- ⑤ 主の招く声が 聞こえてくる。  
こんなに小さな 私たちさえも  
みわざのため 用いられる。

派遣

司式者 主は言われます。  
「わたしは誰を遣わすべきか。」  
会衆 わたしがここにおります。  
わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン

アーメン アーメン アーメン

後奏 「聖徒の行進」 (R.G.ヴェルデ)

司式 佐々木 悠  
説教 向井 希夫牧師  
奏楽 玉理 照子  
助餐  
(準備・片付け)

※お立ちになるのが困難な方は、  
座ったままで礼拝をお守り下さい。  
※讚美歌の最後には、基本的に「アーメン」を付けません。

【誕生会のリタニー】

司式者：神さまは、11月生まれの方々に  
誕生日を与えてくださいました。  
いのちをくださる神さま、  
みんな：ありがとうございます。  
司式者：神さまは、生まれてから今日まで、  
この方々の成長を支えてくださいました。  
育ててくださる神さま  
みんな：ありがとうございます。  
司式者：神さまは、どんなときにもいっしょに  
いてくださいます。  
守ってくださる神さま  
みんな：ありがとうございます。  
司式者：神さまからの愛のプレゼント、  
11月生まれの方々の誕生日を  
みんな喜びお祝いします。

祝福のお祈り 牧師